

| | | |
|--------|--|------|
| 科目名 | 国際保健論 | 2 単位 |
| 担当者 | 宮本 圭 | |
| テーマ | 人類が歴史において綿々と追い求める健康とは何か、そして、国際保健に関わる基本概念や優先課題およびその取り組みについて包括的に学ぶ。 | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> グローバルヘルス、持続可能な開発目標、プライマリヘルスケア、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、健康の平等</p> <p><内容の要約> 国際保健に関する歴史的変遷や基本概念・定義を学ぶ。その理解を踏まえ、現在、地球規模で取り組むべき主な保健課題—健康格差、エイズ・結核・マラリアの三大感染症、リプロダクティブヘルス、メンタルヘルス、難民の健康問題など—について、テキストに加え、多様な文献・情報、各自の体験等を取り入れながら、積極的に議論を交わし、学んでいく。</p> <p><学習目標> 1) 国際保健に関連する主要概念について理解できる。 2) 国際保健における優先課題と具体的な取り組みについて理解できる。 3) 国際保健の関連領域（社会開発、教育、ジェンダー、等）について俯瞰的に捉え、国際保健との関連について考えることができる。 4) 地球規模で起こる保健課題について関心を持ち、自身の事柄として考えを深めることができる。</p> | |
| 授業の進め方 | <p><進め方> 履修者は以下に示す各回（各 2 週間）テーマを参考に、興味・関心のある回に希望を出す。履修者間で希望の重複等を調整し、担当回を決定する。各担当者は担当範囲のテキストの要約と論点を提起し、それに基づき、みなで議論する。</p> <p>第 1～2 回：(テキスト) 第Ⅰ部 グローバルヘルスの基本概念と戦略 (p.1～43) 2 グローバル化の中の国際保健 3 プライマリヘルスケア 7 健康の社会的決定要因と健康格差、 9 人間の安全保障 11 持続的開発目標、他</p> <p>第 3～4 回：(テキスト) 第Ⅱ部 国際保健医療の研究と実践の方法 (p.44～112) 保健医療統計、保健人材評価、医療人類学的アプローチ、他</p> <p>第 5～6 回：第Ⅲ部 国際保健医療の実際 (p.113～) 1 リプロダクティブヘルス、人口と家族 2 母子保健・新生児保健・小児保健</p> <p>第 7～8 回：第Ⅲ部 国際保健医療の実際 4 メンタルヘルス 14 伝統医療</p> <p>第 9～10 回：第Ⅲ部 国際保健医療の実際 10 避難民保健 11 テロ概論 13 災害医療</p> <p>第 11～12 回：第Ⅲ部 国際保健医療の実際 12 新興・再興感染症 16 エイズ 17 結核 18 マラリア</p> <p>第 13～14 回：第Ⅳ部 国際保健医療の関連領域(p.182～) 1 経済開発・貧困削減 2 社会開発・人間開発 12 在日外国人の医療、他</p> <p>第 15 回：まとめ</p> | |

| | |
|----------------------------|---|
| 事前学習の内容・ 学習上の注意 | <p>○指定したテキストを自主的に読み進めた上で、積極的に議論に参加すること。</p> <p>○履修生は、自らの研究の対象国・地域やこれまでの経験等から保健課題を自身に引き寄せて考える姿勢を心掛け、学習に臨むこと。</p> |
| 本科目の 関連科目 | <p>特になし</p> |
| テキスト | <p>日本国際保健医療学会編（2013）「国際保健医療学 第3版」杏林書院 本体 3,200 円＋税</p> |
| 参考文献 | <p>○Carol Holts (2013) “Global Health Care, Issues and Policies, Second Edition” Jones & Bartlett Learning</p> <p>○池田光穂（2001）『実践の医療人類学』世界思想社</p> <p>○A.ハルドン、S.ファン・デル・ヘースト他、石川信克・尾崎敬子監訳（2001）『保健と医療の人類学 調査研究の手引き』世界思想社 他、開始時および開講中、随時紹介する。</p> |
| 成績評価方法 と基準 | <p>担当回でのテキスト要約やコメント・論点の提示（20%）、ディスカッションへの参加度（50%）、最終レポート（30%）により評価し、総合評価 60%以上を合格とする。なお、最終レポート提出は、担当回での役割遂行、ディスカッションへの参加度（担当回以外における投稿回数および発言内容）が十分であることを条件とする。</p> |

| | | |
|----------------|--|------|
| 科目名 | 障害と開発 | 2 単位 |
| 担当者 | 久野研二 | |
| テーマ | 障害という課題を多様性を考える一つのきっかけとし、その視点から人間の多様性を前提とした社会開発の有り方を検討する。 | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 1.障害、2.多様性、3.分野横断的課題、4.社会的排除、5.社会参加</p> <p><内容の要約> 障害とは単なる個人の身心機能の問題ではなく、社会的に構築された差異とそれに基づく社会的排除や不平等の課題である。障害とは、ジェンダーと同様に、医療などのある一分野の課題ではなく、開発全体にまたがる分野横断的課題であり、開発全体の枠組みの中で捉えられていく必要がある。それ以上に、障害という視点は人間の多様性を前提とした共生社会開発のあるべき姿を映しだし、既存の開発の枠組みや取り組みそのものを批判的に捉えることを可能にする。</p> <p>障害分野を専門とするものだけではなく、社会開発を学ぶ受講者にとっても有益な視点の獲得となることを目指す。</p> <p><学習目標> 人間の多様性を前提とした共生社会開発を実現するための理論的枠組みの理解。 共生社会を目指した「エンパワメント」と「社会・環境可能性の拡大 (Enablement)」のための具体的な実践ができる。</p> | |
| 授業の進め方 | <p>第 1 回：導入：講座の概要と進め方についての説明 第 2,3 回：差異とは何か：「差異」「多様性」「正常」などの概念についての事例検討を通して議論する。 第 4,5,6 回：障害を読み解く視点：障害のモデル：「障害の社会モデル」を中心に、障害を読み解く視点としての障害のモデルを議論する。 第 7,8,9 回：開発と障害の統合：包括的枠組み：センのケイパビリティ・アプローチなどを中心に、開発と障害の諸課題を「一枚の地図」の上で理解していくことを可能にするための包括的な思考の枠組みについて議論する。 第 10,11,12 回：「障害と開発」のアプローチ：複線アプローチを中心に、社会開発の取り組みの具体的な枠組みとアプローチについて議論する。エンパワメントと「社会・環境可能性の拡大 (Enablement)」についても取り上げる。 第 13,14 回：「障害と開発」の具体的な実践：適正技術や地域社会に根ざしたりハビリテーション (Community Based Rehabilitation: CBR) など具体的な実践や取り組みについて議論する。 第 15 回：まとめ：レポート課題の振り返りを通して、本講座のまとめを行う。</p> | |
| 事前学習の内容・学習上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座開始前に講座ガイドを読んでおくこと。 ・ 各講座の開始前に指定した資料・テキストを読んでおくこと。 ・ 各講座終了までに講座ガイドに挙げている参考文献を少なくとも 3 文献以上は読み理解を整理しておくこと。 ・ 障害学や開発学での基礎的な理論に関する知識を前提として講義する。 ・ 授業ではテキストの読解による自習と平行して、映像資料などによる事例をもとにした議論を WEB 掲示板にて行う。テキストはあくまでも道標とし、テーマ毎の参考文献および検討内容を「講座ガイド」に提示する。 ・ 上記のテーマと平行して、各自のレポートや修士論文執筆過程で生じる疑問や質問などについても議論していく。 | |
| 本科目の関連科目 | 開発基礎論Ⅲ、開発政策論、地域社会開発論 | |
| テキスト | 各テーマ毎の資料を PDF にしてまとめたものをテキストとする。大学の HP「テキスト科目関係資料」から各自ダウンロードしておくこと。 | |
| 参考文献 | <p>久野研二・中西由起子(2004)「リハビリテーション国際協力入門」三輪書店 森壮也編(2008)『障害と開発：途上国の障害当事者と社会』アジア経済研究所 石川准・長瀬修 編著(1999)「障害学への招待」明石書店 ピーター・コリッジ(1999)「アジア・アフリカの障害者とエンパワメント」明石書店 アマルティア・セン(1999)「不平等の再検討:潜在能力と自由」岩波書店</p> | |
| 成績評価方法と基準 | 講座への参加度 (30%)、提出レポート (70%) の方法で評価を行い、全体で 60%以上を合格とする。「講座への参加度」は掲示板への投稿回数とその内容、「レポート」の採点基準は内容 65 点 (内訳：課題検討 20 点、分野理解度 15 点、論理性 15 点、客観性 15 点)、構成 35 点 (内訳：構成 15 点、表記・表現 10 点、体裁・様式 10 点) で評価する。 | |

| | | |
|--------|---|------|
| 科目名 | 開発協力論 | 2 単位 |
| 担当者 | 山田 浩司 | |
| テーマ | 持続可能な開発目標 (SDGs) がどのような背景から生まれてきたのか。SDGs の達成に向けて、誰がどのような貢献ができるのか？ | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 持続可能な開発、SDGs、効果的な開発協力、ODA</p> <p><内容の要約> 2015年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発に向けた2030アジェンダ」は、2016年から2030年までの15年間に国際社会が達成に向け取り組むべき開発課題を示したもので、その達成目標は17のゴール、169のターゲットで表される。本講座では、履修者の関心研究領域や開発実践にも影響を及ぼすSDGsの概要と、その形成の背景、目標達成に向けた取組における援助／開発協力の位置付けを理解し、履修者自身の開発へのアプローチにつき考察を進める。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な開発目標 (SDGs) とその背景となる考え方を理解する。 2. SDGs が履修者の関心領域や開発実践に及ぼす影響につき洞察できる。 3. SDGs 実現に向けた開発協力の役割につき理解し、ODA を含む開発協力の今後の展望を洞察できる。 | |
| 授業の進め方 | <p>下記のテーマについて、テキストをもとに、その分析と討議を繰り返す形をとる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介を兼ねてテキストのどの部分の報告を誰が担当するかを決定する。 <p>第2回～第3回 2030アジェンダと持続可能な開発目標 (SDGs) の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外務省 HP にある国連サミット成果文書を読み、「2030アジェンダ」の枠組み、SDGs の構成、特徴等を議論する。履修者は成果文書を事前に読み、疑問点や理解しかねる点を挙げ、教官はこれまでの制定プロセスを見てきた立場から、これに対して適宜補足説明を行う。 <p>第4回～第13回 テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各章毎に担当者がテキストの要約と疑問点、議論したい点について提示し、電子掲示板にて意見交換を行う。教官はテキストの理解が不十分な点等をコメントする他、テキストでカバーされていない事項等を補足、あるいはさらなる問題提起をするなどの形で、議論が深まるよう支援する。 ・ その章の担当ではない履修者も、各章毎に自身の意見、疑問点を提示して議論に参加することを期待する。 <p>第14回～第15回 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの議論を踏まえ、開発協力のあり方につき意見交換を行う。履修者は、自身が持続可能な開発にどのように貢献できるか、その実現には科政府開発援助 (ODA) やその他の関係者との協働・連携がどのような形で求められるか、各々の立場から論じ、それをもとに意見交換を行う。教官の役割はそれまでと同様。 <p>期末レポート</p> <p>テキストの内容や授業中におけるディスカッションなどを通じて学んだことを踏まえ、期末レポートの課題を提示するので、受講生はこれに従ってレポートを提出。</p> | |

| | |
|--------------------|--|
| 事前学習の内容・ 学習上の注意 | <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを事前に読み、不明点や疑問点をあらかじめ明らかにしておくこと。 2. テキストの内容に関連し、自身が体験ないし見聞したことが参考になると思われる場合は、その内容を他の履修者とも共有すること。 3. 必要に応じ、指定した参考文献を読むこと。参考文献以外でも他の履修者にとっても有益と思われる文献があれば、他の履修者と共有することが望ましい。 |
| テキスト | ジェフリー・サックス『地球全体を幸福にする経済学』（早川書房、2009年） |
| 参考文献 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 外務省 HP 「「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択する国連サミット」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/gic/page3_001387.html 2. ウィリアム・イースタリー『傲慢な援助』（東洋経済新報社、2009年） 3. イアン・スマイリー『貧困を救うテクノロジー』（イースト・プレス、2015年） 4. 英エコノミスト編集部『2050年の世界—英『エコノミスト』誌は予測する』（文藝春秋、2012年） 5. “Fresh Ideas on the Future of Foreign Aid” Global Development Network (GDN) Next Horizons Essay Contest 表彰者論文 http://www.gdn.int/html/page2.php?MID=3&SID=24&SSID=24&SCID=69&SSCID=153 |
| 成績評価 方 法と基準 | 期末レポートの成績（50%）、日常のディスカッションへの参加度合（50%）で、60%以上を合格とする。 |

| | | |
|----------------|---|------|
| 科目名 | マイクロファイナンス論 | 2 単位 |
| 担当者 | 岡本真理子 | |
| テーマ | 低所得層向けのマイクロファイナンスとは何かを理解する | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 貯蓄、クレジット、金融サービス、零細自営業、女性グループ</p> <p><内容の要約> この科目では、マイクロファイナンスを発展途上国の包摂的開発のための手段として位置づけ、その基本概念とその現状について把握する。そして、マイクロファイナンスの導入とその事業設計をする際に不可欠な基本事項を理論的に理解し、既存の成功例ではなぜ高い返済率を実現しえたのか、どのような前提条件が必要かといったことについて学び、その理解を深めていく。</p> <p>また、近年、途上国のマイクロファイナンスの商業化が進み、巨大産業となっているが、その中で、高利子率や金融機関の不透明性が指摘される。このような現実をどのように考え、打開していくべきなのかについても、この講義で扱っていききたい。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロファイナンスを、当事者の多様な実態において理解する。 ・途上国の現実問題に対してミクロ経済学的アプローチができる。 ・マイクロファイナンスおよび開発関連の用語が身に付く。 | |
| 授業の進め方 | 第1回 導入 第2回 マイクロファイナンスとは何か 第3回 どのような人々がどのようなサービスを活用しているか。 第4回 (続き) どのように利用者に役立っているのか。 第5回 新たな金融サービス(デジタル金融)の可能性。 第6回 マイクロファイナンス実施機関の諸形態とその差異の意味 第7回 マイクロファイナンス機関の資金調達 第8回 マイクロファイナンスの普及の現状とフロンティアの存在 第9回 マイクロファイナンスと多重債務問題(1) 第10回 マイクロファイナンスと多重債務問題(2) 第11回 マイクロファイナンス機関の高利子率問題 第12回 マイクロファイナンスの女性のエンパワーメントへの効果 第13回 低所得層の金融包摂のための今後の課題 第14回 残された疑問 第15回 質疑応答 | |
| 事前学習の内容・学習上の注意 | テキストは無料ダウンロードできる。必要に応じて、読むべきところを紹介していくつもりなので、全章を入手しておいてほしい。 また、関連する自分自身の体験や現地での観察の紹介を歓迎する。 | |
| 本科目の関連科目 | 開発のミクロ経済学、開発組織・制度論 | |
| テキスト | 粟野晴子『マイクロファイナンス早わかり講座 初級編、中級編』の各章(http://www.oikocredit.jp/ より入手)、CGAPで入手できる論文など(適宜指示) | |
| 参考文献 | Joanna Ledgerwood (2013) <i>The New Microfinance handbook</i> , World Bank D・カーラン&J. アベル (2013)『善意で貧困はなくせるのか?』みすず書房 Morduch (2005) <i>The Economics of Microfinance</i> , MIT Press 岡本、栗野、吉田著『マイクロファイナンス読本』、2000年、明石書店 | |
| 成績評価方法と基準 | 担当箇所の報告と問題提起(50%) 質疑応答への参加(50%) | |

| | | |
|--------|--|------|
| 科目名 | 国際開発ワーカー（支援者）のためのビジネスの基礎 | 2 単位 |
| 担当者 | 野田 さえ子 | |
| テーマ | ビジネスセンスを磨こう | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 援助者のビジネスセンス、マーケティング、ブランディング、地場産業振興、起業</p> <p><内容の要約> 「道徳なき経済は犯罪である。経済なき道徳は寝言である」 by 二宮尊徳</p> <p>貧困解消、エンパワーメント、地域やコミュニティの再生、福祉の充実、中小・零細企業振興…。こうした途上国の様々な開発課題を考える上で求められているのは、社会性の実現の礎となる事業性（ビジネスセンス・経営力）の確保にある。各機関の予算や資源に限りのある中、国際開発ワーカー（あるいは支援者）として社会に向き合い成果を上げることが志す場合、個人にビジネスセンスあるいは経営力を身に着けることが必要となってきた。本講座では、失敗事例や成功事例の分析を通じて、支援者として必要なビジネスの基礎知識および視座を身に着けることを目的とする。</p> <p><学習目標> 国際開発ワーカーとして成果を上げるために必要とされる経営的視座をみにつける。 （1）援助者の思い込みや傾向性、事業者との視点の違いに気づく — 援助者のメンタリティ、プロダクトアウトからの脱却 （2）ビジネス運営の基礎知識を身に着ける — ビジネスの原理原則、事業計画、損益計算、マーケティング、ブランディング、地域ブランディング、リスク管理 （3）ビジネス振興のための支援者として必要な視点を身につける — 各種アクターの養成、サプライチェーン構築、販路支援手法の比較、ビジネス支援の投資効果</p> | |
| 授業の進め方 | <p>テキストおよび講師配布の演習用分析資料(エクセル)に沿って講義と議論を進める。</p> <p>第1回 援助者のメンタリティ 支援のスタンス（ピラミッド型と積み木型）</p> <p>第2回 失敗と成功の確率論 リスク管理への視座</p> <p>第3回 政府・エージェント・生産者の役割分担</p> <p>第4回 市場のサイズと物流コスト</p> <p>第5回 ビジネスの原理・原則 ～付加価値信仰に陥る前に</p> <p>第6回 お金の流れとサプライチェーン 域内連携の重要性</p> <p>第7回 ブランディング</p> <p>第8回 地域ブランディング</p> <p>第9回 援助者のプロダクトアウト ケースから学ぶ①売り先がみつからなかった有機野菜 ケースから学ぶ②放置された検査キット製造ラボ ケースから学ぶ③研究プロジェクトを企業活動にしてみたら</p> <p>第10回 マーケティング概論 ターゲットを定める</p> <p>第11回 マーケティング概論 4P（価格、売り場、販売促進、商品）を定める</p> <p>第12回 販路支援のための2手法の比較（常設型アンテナショップと期間限定型テストマーケティング）</p> <p>第13回 事業を起こすための資金計画 ※エクセル演習</p> <p>第14回 儲かっているの？損しているの？事業を運営するための損益計算</p> <p>第15回 ビジネス支援の投資効果</p> | |

| | |
|----------------------------|--|
| 事前学習の内容・ 学習上の注意 | <p>1.現実世界と理論とを常に統合させ、現実世界における自らの行動の選択肢の見直しや現実世界における判断力の向上を図ること。</p> <p>2.様々な選択肢を多様に検討すること。答えは一つではなく、バランスであり、そのバランスをより具体的に考察し、選択していくことを大切にすること。</p> <p>3.過去の分析については、クリティカルシンキング（批判的省察）を、また、未来についての創造については常に建設的に考えること。</p> |
| 本科目の 関連科目 | <p>開発組織・制度論、開発のミクロ経済学、途上国社会経済論、 マイクロファイナンス論</p> |
| テキスト | <p>国際協力の教科書シリーズ2「ビジネス振興と経営～ビジネスセンスを磨こう」 野田さえ子、吉川典子、奥田桐子（人の森 2016）</p> |
| 参考文献 | <p>さらに極めたい人向けの参考文献として Philip Kotler & Kevin Lane Keller “Marketing Management” 13th Edition, (Pearson International Edition 2008) 版は違いますが、日本語訳は2015年時点で以下の本が該当。 「コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版」 Philip Kotler (著), Kevin Lane Keller (著), 恩蔵 直人 (監修), 月谷 真紀 (翻訳)(丸善出版 2014)</p> |
| 成績評価方法 と基準 | <p>討論や質疑応答は メーリングリスト上で行い、最終レポート作成（A4で5ページ以上 文字数制限なし、フォーマット不問）を行う。 レポート作成は、自分や自分の属する団体、あるいは自分が関わる案件（ない場合は身近な事例）を各自取り上げ、本講座での得たコンセプトや視座を駆使して、同案件や組織の事業性の向上のための改善案の立案を行う。 成績評価は最終レポートにおいて、知識の習得と活用の2点において評価を行う。具体的には、 1）本コースを通して事業性を向上させるための具体的な知識・視座を習得したか（知識の習得） 70% 2）習得した知識・視座を活用して創出した改善案における事業性そのものへの評価（知識の活用） 30% に基づいて行う。</p> <p>これらの基準を基に以下のA、B、C、D、Kの判定とする。</p> <p>A 期末レポートを提出し、知識の習得と知識の活用を十分示した方 B 期末レポートを提出し、少なくとも知識の習得を十分に示した方 C 期末レポートを提出したけれども、知識の習得や知識の活用双方において、大学院生のレポートとして質的にかなり課題があったものの、加筆・修正を行い、再提出したことにより、最低限の知識習得を示した方 D 掲示板では投稿したものの期末レポートを未提出、あるいは、提出したものの基準に達しておらず加筆を求められたにもかかわらず再提出できなかった方 K 期末レポートの提出がなくかつ掲示板での発言もなされていなかった方、あるいは受講者本人から棄権する旨の希望がよせられた場合</p> <p>なお、知識の習得の達成度は、はすべての章からのコンセプトを分析することではなく、関連する知識やコンセプトを取捨選択して示せばよい。 なお、メーリングリスト上の討論の参加度・及び討議内容は加点材料としてのみ参考にする。</p> |

Social Development

Online Course Guide

Description, Goal and Objectives, Study Methods and Requirements, Course Contents and Outputs by Module, Suggested Readings.



Nihon Fukushi University

Graduate School of International Social Development

September 16, 2016 - January 30, 2017

7 pages

The faculty-in-charge welcomes comments and inquiries from prospective students. For class discussion, week 1.

Dear Fellow Learners,

Welcome to the course on Social Development online.

This is an online course, which means that **our primary means of interaction will be through the internet**. Our course learning environment can be accessed through the portal, <https://development-school.jp/in/class.html>.

This course will require your active participation in the online forum and sharing sessions to be done through the course learning environment. Thus, one of your immediate tasks is to orient yourself with the said environment. Kindly email me if you have trouble doing so.

This course promotes independent learning, which can be both good and bad. It is good because you can study the topics and access the course learning environment normally at your own time and place. This will be convenient for those students who are involved in full time or part time employment. It can be bad when some members of the class would end up not being able to keep up with the pace of the course. We suggest that you pace yourself according to the schedule suggested here (or, as may be agreed upon in class).

The Course Guide tells you about the faculty resource, the course goal and specific objectives, the course study methods and requirements and bases for grading, the course contents by module, and the basic and suggested readings. The **final Course Guide**, after due class consultation, will be posted 2nd week of the semester. ... Good luck. 🙏

Faculty-in-charge: Ma. Corazon J. Veneracion, BSSW, MSW, PhD.



Prof. Ma. Corazon J. Veneracion serves as the course faculty-in-charge. She obtained her undergraduate and graduate degrees from the University of the Philippines (U.P) Diliman. She received a Diploma in Social Development from Coady International Institute, St. Francis Xavier University, Nova Scotia, Canada. Her special interests are in environment advocacy, participatory development in local governance, rural development, and Social Work indigenization, practice and research.

Course Description, Goal, Methods & Requirements

Administrative positions held: Secretary, College of Social Work and Community Development; Chairperson, Department of Social Work; Coordinator, Office of Research & Publications.

In distance education, prior to and upon retirement, as a U.P. Professor of Social Work, she served as Social Work Research faculty-affiliate of the U.P. Open University; and, as Social Development online course faculty-in-charge at NFU Graduate School, Nagoya, Japan. Her email address: macorazonjveneracion@gmail.com.

There is an added feature of the course that has to do with the use of English as a second language. For students who wish to be helped further in English writing, a resource person, Dr. Angela P. Lansang (PhD Linguistics, University of Louvain, Belgium) is available. Students can email their work to her via this address, belinglansang@gmail.com. For further details, contact Prof. Veneracion.

Part 1 ... Course Description, Goal, Methods and Requirements

Course Description: Development approaches, theories and perspectives, with emphasis on the “social” and “participatory” in development policies, programs, and/or projects.

Goal: To describe and explain the theory and practice of social development.

Methods and Requirements

The **course guide** basically consists of four modules. Each module begins with the readings and ends with a discussion of Answers to Focus Discussion Guide Questions (FDGQs). As a co-learner, the individual student is expected to participate, raise questions, and exchange views and field experiences in the class chat or e-board. A book commentary/review asks the student to distill his/her learnings and insights from a chosen book, to be submitted towards the end of the 2nd month of the term. Finally, the student will write a case study that seeks to integrate the course literature review with the realities of field practice. The class will formulate and apply case study writing guidelines. Bonus/additional points: The student is encouraged to build his/her own glossary of terms relevant and useful to the understanding of social development. **Requirements:** The bases for grading are:

| | |
|------|---|
| 15% | Participation in the class chat board |
| 25% | Answers to Focus Discussion Guide Questions, Modules One and Two |
| 10% | Book Commentary/Review. Choose one only from the two books below: Sen, A. 2001. <i>Development as freedom</i> , Oxford University Press. Or, Sachs, J. 2005. <i>The end of poverty</i> . U.S.: Penguin Press. |
| 50% | Case study |
| 100% | |

Specific Learning Objectives and Outputs by Module

Module One: To analyze a range of theoretical foundations of /for social development practice . Output - Reflections: Answers to FDGQs.

Module Two: To obtain poverty conceptions of its causes and consequences, in relation to development policy proposals for poverty reduction. Output - Reflection. FDGQ: Why or how is poverty related to development?

Module Three: To identify and describe development goals and strategies at the macro- and micro-levels, and to glean some “ lessons from experience”. Output - Reflections: Answers to FDGQs. What is/are “social” about development policies and programs?

Module Four: To present a real case of student’s choice, made evident at either policy or program development practice levels; and, to examine the case using a selected social development framework, in any of the following fields: education (formal or non-formal), employment, livelihood and productivity, environment protection, food security, health, housing, micro-finance, social entrepreneurship, and other development sectors. Output: Progress report; . Case Study Presented (Write-up)

Part 2. Course Contents by Module

Module One: **Development Perspectives**. Theoretical models. Time Line/Trends in social development thinking and theorizing. As a global concern: The UN “millennium goals” 2000 - 2015 ; the “global goals” 2015 and beyond . **Human development Index**.

Understanding social development - - - as a matrix of political/legal, economic and, cultural development; as a multi-level activity (global - national - local); as a sectoral or multi-sectoral concern (health, education, employment, environment, etc.) ; as a multi-actor collaboration (or the interaction between e.g., government organizations, international organizations, non-government organizations or NGOs, community-based organizations, people’s organizations, and the private sector.

Module Two : **Poverty and social development** . Poverty conceptions considering their advantages and limitations in offering explanations on, and solutions to, poverty situations. Theory of underdevelopment.

Module Three: **Country Experiences in Poverty Reduction**. How the poor can prevail...feature news stories and country studies.

Module Four: **Case Study Write-shop**. Case Study Guide.

Part 3. Suggested Readings.

(Student may enter his/her own suggestions, if any. **Tip: As you go through your readings, you may note down some key concepts for possible inclusion in your own Glossary of terms in social development.**)

T. Allen and A. Thomas. 2000. *Poverty and development into the 21st century.* Oxford: The Open University in cooperation with Oxford Univ. Press. Meanings and views about development, Chap 1 and 2.

S. Burkey. 1997. What is development? Chap 2 in: *People first: A guide to self-reliant participatory rural development.* London: Zed Books.

S. Cook. 2010. Combating poverty and inequality: The role of social policy. United Nations Research Institute for Social Development (UNRISD). For Details, request for an email of "Overview," download through www.unrisd.org/publications/cpi

V. Desai & R. B. Potter (Eds.) 2014. *The Companion to Development Studies (3rd ed.)* London: Routledge Taylor & Francis Group. 587 + pages.

Guzman, A. 1993. " Models/Theories of development and the concept of social development, " *Journal of Public Administration*, Vol xxxvii, No. 2, Apr.

S. Marks. 2003. The human rights framework for development: Seven approaches. 26 pages. In: <http://www.hsph.harvard.edu/xfbcenter/FXBCWP18--Marks.pdf>

J. Martinussen. 1997. *Society, state and market: A guide to competing theories of development.* Nova Scotia: Fernwood Publ. Chap. 3 - Conceptions and dimensions; Chapter 20 - Dimensions of alternative development; Chapter 21 - Poverty and social development.

Pieterse, J.A. 1998. My paradigm or yours? Alternative development, post development, reflexive development, in *Development and Change*, vol. 29, pp. 343-373. Institute of Development Studies. Published by Blackwell Publishers Ltd. 108, Cowley Road. Ox4(31) UK; copyright 2000.

J. Sachs. 2005. *The end of poverty.* U.S.: Penguin Press.

Suggested Readings

A. Sen. 1999. *Development as freedom*. N.Y.: Oxford University Press. Chapter 1 – The perspective of freedom; Chapter 2 - Ends and means of development; Chapter 3 - Freedom and the foundations of justice. Chapter 4, Poverty as capability deprivation.

UP CDRC. 1996 & 1997. Proceedings (Summaries) of Copenhagen Seminars on Social Development. University of the Philippines, Diliman, Q.C. For Download.

UNDP Report. 2010. *Power, voices, and rights*. A turning point for gender equality in Asia and the Pacific.

<http://hdr.undp.org/en/reports/regional/asiathepacific/RHDR-2010-AsiaPacific.pdf>

Websites: (Student may update the readings listed below, and suggest other readings.)

- Balakrishnan, R., D. Elson & R. Patel. 2009. Rethinking Economic Strategies from a Human Rights Perspective. [http:// www.networkideas.org/featart/Mar2009/MES2.pdf](http://www.networkideas.org/featart/Mar2009/MES2.pdf)
- Definitions of Rights-based approach to development by perspective. In [http://www.crin.org/docs/resources/publications/hrbap/interaction analysis RBA defs.pdf](http://www.crin.org/docs/resources/publications/hrbap/interaction_analysis_RBA_defs.pdf)
- Frequently Asked Questions on human rights-based approach to development cooperation. In: <http://www/ohchr.org/Documents?Publications?FAQen.pdf>
- Human development report 2000. Human rights and human development. in: [http://hdr.undp.org/en/media/HDR2000 EN Overview.pdf](http://hdr.undp.org/en/media/HDR2000_EN_Overview.pdf).
- Glossary on human rights and human development. in Human Development Report 2006. [http://hdr.undp.org/en/media/HDR2000 EN Overview.pdf](http://hdr.undp.org/en/media/HDR2000_EN_Overview.pdf)
- Defining social development: www.indsocdev.org/definingsocialdevelopment.html ...*Five Indices of social development.

> Seventeen (17) Goals to transform our world - Sept 25,2015.
www.un.org/sustainable-development/sustainable-development-goals/

Videos - Heroes, What is sustainable development? Sept 10, 2015. * Global goals.
(Note change from “Millenium” goals to “Global” goals)

<End>



See you, in our virtual classroom.

Development is a puzzle.

Let us discover the parts that fit into a meaningful whole. Mcjv 3-15-17

| | | |
|----------------------------------|---|-----------|
| Course | Social Development Case Studies | Credit: 2 |
| Lecturer | <p>Kamal PHUYAL (Mr.)</p> <p>Mr. Phuyal has over 25 years of professional experience in development field. He worked with rural people in various communities in Nepal as development facilitator. Besides, he has taught in different universities as guest lecturer both in Nepal and in Japan. His main areas of works are teaching in universities (as a visiting lecturer), conducting participatory training, facilitation on participatory development programming (situation assessment, planning, implementation, monitoring and evaluation) for poverty reduction and community empowerment, on which he has worked in various countries such as Vietnam, Cambodia, Laos, Philippines, Indonesia, Thailand, East Timor, Bangladesh, Sri Lanka, Ghana, Burkina Faso, etc.</p> | |
| Theme | <p>Theme of the course: Social development process</p> <p>Social development process emphasizes to follow the concept of 'people-led development' in which people are always placed in the whole development process. Development thinkers and facilitators help to create an environment to engage local community, preferably the marginalized, to think, plan and act for development, which affects their lives and condition.</p> <p>Development thinkers and practitioners apply appropriate tools and techniques so as to make the process easy in which local people can express their ideas thoroughly and act actively to bring the change in society. The Social Development Course imparts both theory and practical aspects of 'people-led development' to the students.</p> | |
| Objective | <p>1. Key words</p> <p>Social development, participatory development, participatory communication, facilitation, participatory tools and techniques, empowerment, social change, social transformation</p> <p>2. Overview</p> <p>The main objective of this course is to review selected cases and approaches of social development in South Asia, compare them with participants' own field experiences and observations, and discuss strengths and weaknesses of the approaches presented in the cases studies.</p> <p>3. Learning goal</p> <p>Students will have opportunity to share their views about development with other students and will learn the concept of social development as well as understand how social development can be done in different contexts in society.</p> | |
| Method for conducting the course | <p>The course offers four popular case materials from South Asia, including each from Nepal, Sri Lanka, Pakistan and India, (preferably the cases from Nepal) and advise participating students to select any of them, and examine the background, main actors involved and the processes of their interactions, performance and effectiveness, the role of outsiders, and possible weaknesses and limitations. The course focuses more on sharing application of 'participatory methods' in order to</p> | |

| | |
|--|---|
| | <p>enhance concept and practical skills on people-led development process. Further, an attention may be paid to technical, policy and institutional trends in specific countries for supporting the above approaches. A common bulletin board or e-mailing list is used for mutual discussions. The discussions will provide space and opportunities for each student to compare the selected cases with their own field experiences and observations and offer comments on strengths and weaknesses. And in case, it requires some inputs from the original authors of case materials, we would request them to join the discussions. This course is conducted in English.</p> |
| <p>Assignments for preparation and review</p> | <p>The students are suggested to go through books and articles on 'people-led development'. Since this particular unit focuses more on the 'application of participatory methods for enhancement of people's participation in development process', the students should read more about participatory methods.</p> <p>The following journals you better refer for academic articles (when you have time):</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Development in Practice 2. World Development 3. Community Development Journal <p>Some reading materials in URL (the following sites are suggested to refer regularly)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Institute of Development Studies [University of Sussex] http://www.ictd.ac.uk 2. International Institute for Environment and Development http://www.iied.org 3. International Development Research Centre [IDRC] http://www.idrc.ca/EN/Pages/default.aspx 4. Society for Participatory Research in Asia [PRIA] http://www.pria.org/ <p>Major contents/terminologies to be discussed (major ones, many new terminologies will be discussed as and when necessary)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Development 2. Participatory development 3. People-led development process 4. Participatory tools and techniques 5. Participatory communication 6. Facilitation, etc. |
| <p>Text</p> | <p>The following four case study materials, with photos and video pictures, are available at the course website.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. T. Gangadharan (India), "People's Planning Campaign: Kerala's Experiment on Decentralization" (about 13 pages). <i>Issues dealt with are: local government system, processes of People's Campaign, system development in grassroots democracy, political impact, etc.</i> 2. Perween Rahman (Pakistan), "Orangi Pilot Project: Institutions and Programs" (about 8 pages). <i>Issues include: organizations and approaches, low-cost sanitation in informal settlements, lessons for working with communities and working with government, etc.</i> 3. K.A. Jayaratne (Sri Lanka), "Community-based Solid Waste Management Model of SEVANATHA" (about 35 pages). <i>This covers: urbanization,</i> |

| | |
|------------------------------|--|
| | <p><i>environmental issues, organizations and approaches, community mobilization, linking with local authorities, etc.</i></p> <p>4. Kamal Phuyal (Nepal), “An introduction to studies of development initiatives and its actors in Nepal” (about 20 pages) with very extensive Annex on participatory tools. <i>Recommended for students interested in PRA/PLA, participatory tools and techniques, and their practical applications in the context of development in Nepal. Further, some additional case studies on Nepal will be shared during the course.</i></p> |
| Reference | <p>Nepal</p> <ul style="list-style-type: none"> • Participatory Learning and Actions http://www.planotes.org/about.html • Thomas, S: What is Participatory Learning and Action: An Introduction, http://www.idp-ky-resources.org/documents/0000/do4267/000.pdf <p>Further, the following books and articles are suggested for reference:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Chambers, Robert (1997a), <i>Whose Reality Counts? Putting the first last</i> (London: Intermediate Technology Publications). 2. White, Shirley A., ed. <i>The Art of Facilitating Participation: Releasing the Power of Grassroots Communication</i>. Edited by A. Shirley White, <i>The Art of Facilitating Participation: Releasing the Power of Grassroots Communication</i>. New Delhi: Sage Publications, 1999. <ol style="list-style-type: none"> a. Participation: Walk the Talk! (pp.15-32) b. The Catalyst Communicator: Facilitation without Fear (pp.35-51) 3. Rist, Gilbert. <i>The History of Development: From Western Origins to Global Faith (3rd Edition)</i>. London: Zed Books, 2008. 4. Kumar, S. <i>Methods for Community Participation: A Complete Guide for Practitioners</i>. New Delhi: Vistaar Publications, 2002. <ol style="list-style-type: none"> a. (Chambers, R.) Paradigm shifts and the practice of participatory research and development (pp.30-42) 5. Chambers, R. <i>Ideas for Development</i>. London: Earthscan, 2005. 6. Cooke, B. And Kothari, U. <i>Participation: The New Tyranny?</i> London: Zed Books, 2002. <ol style="list-style-type: none"> a. The Case for Participation as Tyranny (pp.1-15) b. (Mosse, D.) ‘People’s Knowledge’, Participation and Patronage: Operations and Representations in Rural Development (pp.16-35) c. (Mohan, Giles) Beyond Participation: Strategies for Deeper Empowerment (pp.153-167) d. (Henkel, H. & Stirrat, R.) Participation as Spiritual Duty: Empowerment as Secular Subjection (pp.168-184) 7. Sachs, Wolfgang, ed. <i>The Development Dictionary: A Guide to Knowledge and Power</i>. New Delhi: Orient Longman, 2000. <ol style="list-style-type: none"> a. Development (pp.8-34) b. Participation (pp.155-175) 8. Escobar, Arturo. <i>Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World</i>. New Jersey: Princeton University Press, 1995. <ol style="list-style-type: none"> a. Introduction: Development and the Anthropology of Modernity (pp.3-20) b. Conclusion: Imagining a Postdevelopment Era (pp.212-226). 9. Rahnama, M. (with Bawtree, V.) <i>The Post Development Reader</i>. London: Zed Books, 1997. |
| Evaluation method & Criteria | <p>Method: frequency to join the discussions and substantial inputs provided in the discussions (60%), final report (40%).</p> <p>Passing Point: overall evaluation</p> <p>Note: Overall evaluation can be done (only) being based on the ‘frequency to join the</p> |

*Offered from September through March
Academic year 2017*

| | |
|--|---|
| | discussions and substantial inputs provided in the discussion'. |
|--|---|

*履修証明プログラム「地域再生のための福祉開発マネジャーの養成」との共通開講（受講方法は別途連絡します）。
*この科目は5月下旬開講予定です。

| | | |
|----------------|---|-----|
| 科目名 | 福祉社会開発演習 | 2単位 |
| 担当者 | 平野隆之 | |
| テーマ | 地域再生のための福祉開発とは | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 福祉と開発の統合、条件不利地域、制度の狭間、場とプロセス、マネジメント</p> <p><内容の要約> 高度に制度化された現代日本で私たちが直面する社会問題の多くは、逆に既存の制度の狭間や機能不全から生じている。それは、中山間地での生活困難、都心団地居住者の孤立、外国人労働者家族の居住不安、ホームレス状態の人々の就業困難、そして被災地の復興の難しさにもみられる。この講義では、制度のギャップないし不在、条件の不利といった課題を抱える地域で、資源を見出し、人びとのアクションを力づけ、生きる歓びを再発見する「場」とプロセスを工夫する地域マネジメントについて、多様な立場からオムニバス形式でアプローチする。</p> <p><学習目標> 人びとが自他の福祉(well-being)向上のために地域社会(community)の開発＝発展(development)に関わるプロセスを理解し、このプロセスを支援する実践者としての基礎的知識と洞察を得る。 福祉社会開発をどのような実践者、どのように担うのかについても、テキストや映像教材を通して学び、受講生のフィールドに応用することを目指す。</p> | |
| 授業の進め方 | <p>第1回 このプログラム(科目)の目的と概要(平野隆之・穂坂光彦)</p> <p>第2回 福祉開発の諸側面：テキストの解題(穂坂光彦)</p> <p>第3回 福祉社会開発の理論①マクロの政策：支援的政策環境(穂坂光彦)</p> <p>第4回 福祉社会開発の理論②メゾの計画：プロセスのマネジメント(穂坂光彦)</p> <p>第5回 福祉社会開発の理論③ミクロの支援：相互作用と変化(穂坂光彦)</p> <p>第6回 制度的福祉と福祉社会開発(1)(平野隆之)</p> <p>第7回 制度的福祉と福祉社会開発(2)(平野隆之)</p> <p>第8回 NPOと地域のマネジメント(雨森孝悦)</p> <p>第9回 場のマネジメント：まちづくりワークショップについて(1)(吉村輝彦)</p> <p>第10回 場のマネジメント：まちづくりワークショップについて(2)(吉村輝彦)</p> <p>第11回 持続可能な地域づくりと生活環境評価(千頭聡)</p> <p>第12回 プログラム評価の概要(横山由香里)</p> <p>第13回 中間支援NPOと福祉社会開発の方法(平野隆之)</p> <p>第14回 高知市における生活困窮者支援(平野隆之)</p> <p>第15回 日本の地域再生の歴史(特別講義：宮本憲一)</p> <p>(下線=実線の講義は、オンデマンド授業です。下線=点線の講義には、映像教材が用意されています。いずれもフォローするネット掲示板討論を行います)</p> | |
| 事前学習の内容・学習上の注意 | 指定テキストを事前に通読してください。 | |
| 本科目の関連科目 | 地域社会開発論 | |

*履修証明プログラム「地域再生のための福祉開発マネジャーの養成」との共通開講（受講方法は別途連絡します）。

*この科目は5月下旬開講予定です。

| | |
|-----------------------|--|
| テキスト | 穂坂光彦/平野隆之/朴兪美/吉村輝彦編『福祉社会の開発：場の形成と支援ワーク』ミネルヴァ書房（2013年）4500円 |
| 参考文献 | 適宜指示します。 |
| 成績評価方法 と基準 | 掲示板授業への討論参加度（40%）と期末レポート（60%）により評価します。 |